

# 雪にまつわる

## 昔の言い伝え

山下上 山腰 進

今冬の重い雪は、倒木や停電を引き起こし昭和56年の大雪に匹敵する雪の災害ではなかったかと思えます。  
 今回は、雪にまつわる昔の言葉をお年寄りの人から聞いたので紹介をします。  
 気象衛星はもちろんだら、ラジオもテレビもない時代に天候の予測は難しかったと思えます。

### 一、雪おこし

西の方からドン、ドンと音がすると大雪になる。日本海側では寒気が流れ込んで雷が鳴り、雪を起す。激しく降る前兆と言われます。夏でなく冬に雷が鳴るといのは余り聞かなかったのですが、最近では飛騨地方でも冬に雷注意報が出る



56豪雪時の宮村役場（「宮村のあゆみ」より）

ことがあるようです。  
 一、熊を獲ると七日雪荒れ  
 昨年は、熊が人家にまでよくできてきたが、熊が出没するときは天候も荒れるということでしょうか。熊を獲ると、その熊の恨みで天候が荒れるという迷信のことでしょうか？今季は的中してしましました。  
 一、シラミ  
 吹雪によって一面真っ白になり、道や方向がわからなくなること。最近「ホワイトアウト」といってたまに耳にします。  
 昨年、北海道で家の近くで遭難して亡くなることがありました。こちらはそれほど風が吹かないので視界がなくなることはいないですが、車に乗っているとそれに近い体験はありますね。

### 一、吹きたまり

吹雪によって深い雪山ができること。たまりとはもりあがること。これは今でもよく使います。

### 一、嫁の水汲み

一日中雪降りでも、夕方一時的に、嫁が水汲みに行くことができるほど、雪の止むときがあるということ。

### 一、ハダカ洗

大雪の翌日、冬晴れの良い天気となることがあるということ。

さて、今年はどんな天候になるのか、穏やかな日々となることを願っています。

# まち協の活動紹介！！ まち協講演会

## 臥龍桜を語る

一之宮町まちづくり協議会では、設立記念事業として臥龍桜をテーマに「まち協」講演会「臥龍桜を語る」を1月25日に飛騨位山文化交流館で開催しました。

講師は、臥龍桜日本画大賞展の創設に関わり、平成2年の第1回から今年度第25回まで審査員を務めてみえる画家の伊藤嘉晃先生と、平成3年の台風で大きな被害を受けた臥龍桜の再生に務められた岐阜大学名誉教授の林進先生です。

講演会には60人が参加し、両先生の話に耳を傾けていました。

講演会は2部構成で行われ、第1部は両先生の講演、2部は両先生による対談形式で行われました。

としている中、周りに発破をかけて、荒縄や消防ホースをかき集めて初期対応にあたったこと、膨大な費用をねん出するため、赤電話から天然記念物に前代未聞の緊急災害復旧費を充てるよう交渉したことなどの裏話を紹介。根系を回復させようと薄墨桜を使って実験して方法を探し、「臥龍桜の生きようとする力に寄り添ってきた」などと話されました。



林先生

## 対談 「水」や「色」、「芸術」など話が弾む

対談では、「生命力」は水が大切で、臥龍桜や一之宮は水に恵まれているという話を皮切りに多方面に話題が展開しました。色については、画家の創り出す無限の色も、桜が持つピンクの色も、無理やりにひき出してはいけないこと、また、画家はデッサンを重ねては創作し、科学者は仮説を重ねては想像の力で新しいものを創り出すなどと、共通点について話されました。

両先生は、質問に答え、千百年ともいわれる臥龍桜の樹齢について、悠久の歴史と水に恵まれたこの地だからこそ生き続けてきたことを改めて話されました。



対談する伊藤先生と林先生

## 伊藤先生 「2度目のデッサン時に役場に来てと…」

偶然高山に来て臥龍桜に出会いデッサンを描いた学生時代の話から始まり、平成元年に2度目のデッサンを描いて、そこで当時の村長から、「村の歴史を作る」ために相談を受けたことなどを紹介。それをきっかけに臥龍桜大賞展が始まり、いまや全国的にも注目されている事業になったことを話されました。また、保存されているたくさんの作品を、芸術・文化・歴史の総合的な美術館のような施設で展示できないかとも提案されました。



伊藤先生

## 林先生 「生きようとする命に寄り添う」信念で…

平成3年の台風で被害を受けた臥龍桜を前にみんなが呆然

「お部屋で楽しく遊ぼう」  
 家で過ごすことが多い季節。  
 折り紙・手作りおもちゃ・トランプ遊び・手芸・お菓子作り・ストレッチなど「お部屋」で楽しく遊ぶヒントを紹介します。  
 図書館期間：平成27年2月17日（火）～3月2日（月）  
 図書館システムの更新に伴い、休館期間中は図書館ホームページも全て休止いたします。  
 ホームページからの蔵書検索、予約、延長等はできません。  
 長期休館でご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。  
**おはなし会の案内**  
 2月14日（土）午前10時30分～  
 スタッフによる絵本の読み聞かせ・手遊び。  
 申し込みは必要ありません。  
 気軽に参加してください。

## 図書館だより



一之宮町の人口情勢			
世帯数		818戸	
年齢	男性	女性	合計
0～14歳	199	163	362
15～64歳	727	743	1,470
65歳以上	322	456	778
合計	1,248	1,362	2,610

1月1日現在・単位：人

日	曜日	行事内容
20	金	町内会長会（支所）
14	土	サタデイサークル
5	木	行政相談・心配ごと・結婚相談（交流館）

**つぎやき**  
 最近見た雑誌で「やせした」の特集をしていました。なんだがはうとしました。特に印象に残っているのが、動物と人間の違いについて触れていたところ。動物にも優しさはありますが、あくまでも自分の血縁に対する優しさである。それに対して、人間は利害関係抜きでやさしさを発揮できるというのです。そういえば、ごく身近にありますが、とびきりのやさしさが、毎朝登校する小中学生を見守り、声をかけて下さる地域の方々のやさしさです。寒い冬でも変わらぬ笑顔で子ども達に接して下さる皆さんに心から感謝しています。ありがとうございます。タメラッテナア。（きごとん）

# 感謝・責任・希望を胸に



終了後、恩師らとともに記念写真を撮る新成人のみなさん



自己紹介で現況や希望を語りました

「新成人を祝うつどい」が1月2日に一之宮公民館で開催され、新たに大人の仲間入りをした26人のうち22人が出席して参加者から祝福を受けました。

つどいは一之宮町まちづくり協議会や一之宮支所、新成人とその親など20人で構成する実行委員会が企画。会場には小中学校時代の恩師や関係者など来賓のほか、新成人の家族約40人も参加しました。式典は、会場からの拍手で迎えらるる新成人の入場で開始されました。

主催者を代表して田邊重敏実行委員長がお祝いのあいさつをし、

- 新成人のみなさん**  
(五十音順、敬称略)
- 石垣遥、伊藤周作、岩野絢斗、牛丸祐貴、大坪裕季、尾上愛、金岡里歩、黒木亜由美、小池皓己、関杉圭悟、谷口翔太、中岩沙樹、中西美咲、野中美来、野畑顯乃、林愛子、日比野友彦、深澤友美、藤枝智紀、牧田沙季、三木愛可、三木峻介、MISU LIANG、山際隆平、山腰達也、山平裕介



# 一之宮まち協だより

第9号

平成27年2月1日

一之宮町  
まちづくり協議会  
広報委員会

高山市一之宮町3087  
電話 53-2424



懐かしい「思い出のアルバム」

続いて記念品が新成人代表の日比野友彦さんに手渡されました。

22人はそれぞれ自己紹介して、周りへの感謝や将来の夢、責任などについて語りました。続いて山平裕介さんと林愛子さんが代表して、「はたちの抱負」を発表し、山平さんは「地元に戻って美容院を開きたい」、林さんは「大好きな故郷で看護師として役に立ちたい」などと希望を語りました。

市が募集した「はたちの思い」行詩」では、佳作に選ばれた中西美咲さんの作品、憧れていた看護師さんすぐそこまで来た夢の実現、何度諦めかけただろう、乗り越えるたびに強まる私の想い」が紹介されました。

来賓として出席された新田善勝一之宮連合町内会副会長や國島芳明市長から祝辞や激励のことばが、また、中学校時代の恩師の藤本真吾先生からは高校受験時のエピソードが紹介され、「いつも変わらぬ仲間を大切に、自分の描く大人像を目指した人になってほしい」とお祝いの言葉が贈られました。

新成人を代表して小池皓己さんがお礼のことは述べた後、新成人の門出を祝って、小学校時代の恩師の瓜田恵美先生の発声で会場全員で乾杯をしました。

スクリーンでは、新成人の深澤友美さんと牧田紗季さんが編集した保育園時代からの「思い出のアルバム」が映され、会場は新成人たちが成長してきた足跡を懐かしく振り返っていました。

最後に、新成人が「MINDING YOU」を合唱し、続いて会場全員で「ふるさと」を歌って閉会しました。

26人の新成人のみなさんが今後大人として、自分の目指す「自己実現」に向けて活躍することを祈念します。

# ニュースのひろば

## 晴天の中出初式開催

高山市消防団の出初式が1月5日に市内各地で行われ、一之宮町では宮中学校グラウンドで開催されました。出初式には本部と1、2、3分団及びラッパ隊、それに宮中学校少年消防クラブ(宮中2年生)が参加しました。

この日の朝は例年になく暖かい日となり、すっきりと晴れわたった中、黒木基右門副支団長の号令のときびきびとした動きで式が行われ、三宅良一支団長のあいさつや閲団、点検等の後、恒例のうず巻が披露されました。

表彰では、岐阜県知事表彰・永年勤続功労章の溝端雄一、清水康晴、小坂正明、小坂修一の各氏(以上25年以上)のほか64人(重複含む)に表彰が伝達されました。



## 岩瀬の子どもと交流

一之宮町の子ども達と高山市の岩瀬児童クラブとの交流会が1月24と25日にわたりモンテウス飛騨位山スノーパークを会場に開かれました。毎年交互に訪問して交流



スキースクールで話を聞く子ども達

会を開催し、今年で20回目。

岩瀬からは4年から6年生までの18人と引率者が参加。一之宮は4、6年生の19人が参加しました。初日は対面式に続いて5班に分かれてスキースクールが開かれ、夜は宿舎となった「臥龍の郷」でレクリエーションを楽しみ、一之宮の子ども達も一緒に泊まりました。翌日は4班に分かれて源流の森クルーズやそり遊び、スノーシュー体験などを行い、「海の子」である岩瀬の子どもたちはもちろん、一之宮の子どもたちも歓声を上げながら交流を深めていきました。

## 宮保育園ですもう大会

宮保育園で1月27日に龍華保育園、こまくさ保育園の3園の年長児が出演したすもう大会が行われました。試合は、園児がスポンの上にもわしを着けて、男女別にトーナメントで行われました。

「山」など、四股名(しこ)などで呼ばれた園児はマットの土俵の上で向き合い、「はっけよいのこった」の行司の合図で取っ組み合って試合開始。土俵の周りに陣取った応援の園児や訪れた家族から歓声が上がっていました。



行司の合図で取組み開始

## 位山でスチャルホリデー

モンテウス飛騨位山スノーパークで1月18日、モンテウス・スベシャルホリデーが開催され、町内のほか市内などからの多くの家族連れでにぎわいました。

当日の1日リフト券購入者先着800名に市内ホテルの無料宿泊券、食事券などが当たる抽選会があったほか豚汁の振る舞いなども行われ、参加者を喜ばせました。

この日は、快晴のスキー日和となり用意された600食の豚汁は早々となくなりました。



豚汁サービスに並ぶ来場者

# 宮景

## どんど焼き

最近、飾り物にプラスチックや針金など多く使われ、取り除いて燃やすようになっており、時代の流れを感じます。  
(広報委員：山腰進 写真も)



神事後、点火されて燃え上がるお札や飾り物類

1月11日、今年の家族の無病息災を願い、どんど焼きが水無神社で行われました。300人ほどの人が集まり、丁重な神事後、火が放たれました。

朝、子ども会が中心となって正月のお札や松飾、しめ縄などの飾り物を各地区の家を回り、集めて持ってきてくれました。たくさん集まり、火の勢いも強くなっていました。雪交じりの寒い中でしたが、あまざけ(酒ではないのですが)がふるまわれ、おいしそうに飲んでいました。

左義長とも呼ばれ全国的に行われている行事ですが、私が子どもの頃は、こんなに大規模ではなかったような気がします。子ども会が積極的に取り組んでくれるおかげだと思います。

この行事は、火にあたると病気をしないと、書初めを燃やすと習字が上手になるとか言われています。

昔は小正月に行われ、正月気分を現実にもどす意味もあると